

外務省記者クラブ同時配布

平成 20 年 2 月 4 日

文 化 庁

「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産推薦に係る 推薦書（正式版）の提出及び共同推薦国の確定について

我が国を含む7カ国（ドイツ、アルゼンチン、ベルギー、フランス、インド、日本、スイス）共同で世界遺産への推薦を進めていた「ル・コルビュジエの建築と都市計画」（我が国の国立西洋美術館（本館）を含む）については、パリ現地時間2月1日（金）、推薦書（正式版）がフランス政府よりユネスコ世界遺産センターへ提出されました。

なお、1月31日付け文化庁プレス発表資料にてお知らせしたとおり、共同推薦国の一つであったインドは現地時間30日にパリで開催された署名式に出席せず、最終的に、今回の共同推薦国からはずれることとなりました。これにより、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」は、インドを除く6カ国による22資産の共同推薦となりましたので、併せてお知らせいたします。（別紙「推薦資産一覧」参照。）

なお、本件については、世界遺産条約関係省庁連絡会議の事務局である外務省より、外務省記者クラブに対し、同様の内容をお知らせしています。

照会先：文化庁文化財部記念物課
課長 内藤 敏也(内線2873)
課長補佐 河野 由香(内線2874)
企画調整係 山名 和也(内線2877)
代表 03(5253)4111 直通 03(6734)2876

《 参 考 》

- 平成19年9月14日 国立西洋美術館（本館）の世界遺産暫定一覧表への記載及び推薦書（暫定版）のユネスコ世界遺産センターへの提出
- 平成19年12月21日 国立西洋美術館本館の重要文化財（建造物）の指定・官報告示完了
- 平成20年1月7日 世界遺産条約関係省庁連絡会議において、日本政府として「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産への推薦について決定
- 平成20年1月30日 フランス・パリにおいて、推薦6カ国の代表者による推薦書への署名式
- 平成20年2月1日 推薦書（正式版）のユネスコ世界遺産センターへの提出
- 平成20年夏～秋頃 国際記念物遺跡会議（イコモス）による現地調査
- 平成21年7月頃 世界遺産一覧表への記載の可否が決定（第33回世界遺産委員会）

「ル・コルビュジエの建築と都市計画」推薦資産一覧

所在国	建築物の名称	設計完了年
ドイツ	ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅	1927
アルゼンチン	クルチェット邸	1949
ベルギー	ギエット邸	1926
フランス	ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸	1923
	クック邸	1926
	サヴォア邸	1928
	救世軍難民院	1929
	スイス学生会館	1930
	ナンジュセール・エ・コリ通りのアパート	1931
	ジャウル邸	1951
	救世軍人民院	1924
	マルセイユのユニテ	1945
	カップ・マルタンの小屋	1951
	デュヴァルの織物工場	1946
	ロンシャンの礼拝堂	1950
	ラ・トゥーレットの修道院	1953
	フィルミニの建築物群	1953 ～1965
日本	国立西洋美術館（本館）	1957
スイス	ジャンヌレ邸	1912
	シュウオヴ邸	1916
	レマン湖畔の小さな家	1923
	イムーブル・クラルテ	1930

計6カ国22資産

「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産推薦について

1. 名 称

ル・コルビュジエの建築と都市計画

(L' œuvre architecturale et urbaine de Le Corbusier)

2. 概 要

ル・コルビュジエ (Le Corbusier, 1887～1965) は、パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家。建築・都市計画のみならず絵画、彫刻、家具などにも取り組み、小住宅から国連ビルの原案まで幅広い創作活動を展開した。合理的、機能的で明晰なデザイン原理を絵画、建築、都市等において追求し、20世紀の建築、都市計画に大きな影響を与えた。本推薦は、世界各地に所在する彼の建築・都市計画作品のうち、7カ国に所在する23の資産について、一括して世界遺産に登録しようとするものである。

3. 遺産の種別

文化遺産 記念工作物、建造物群

4. 構成資産

別紙参照

5. 「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の文化遺産の価値

以下に示すとおり、本資産は世界遺産の登録基準の i)、ii)、vi) の観点から評価が可能である。

i) ル・コルビュジエの建築と都市計画は、人間の創造的才能を示す傑作である。

ル・コルビュジエの作品群は、20世紀の新たな問題を探り、これに対する前例の無い答えを見出したものである。彼の比類無き創意は住宅から都市計画まで幅広く見られ、形態、空間、色彩のみならず、技法やそこでどのように生活するかといった面にも現れている。彼の作品群は、その独創的な創造物であるに留まらず、世界中の建築と都市計画が採用する解決策を先取りしたものである。

ii) ル・コルビュジエの建築と都市計画は、建築と都市計画の発展に重大な影響を与えたある期間を物語るものである。

ル・コルビュジエの作品群は、「近代建築運動」と呼ばれる20世紀における建築と都市計画の主流をなす手法の、誕生と発展を物語るものである。この運動の元、世界中の都市景観がその形態、材料、技術の各側面において大きく変容した。ル・コルビュジエは、20世紀初頭から1960年代半ばまでこの運動にきわめて重要な貢献をただけでなく、その死後も著書等を通じて影響を与え続けている。

vi) ル・コルビュジエの建築と都市計画は、顕著な普遍的価値を有する思想、芸術的作品と関連がある。

ル・コルビュジエの作品群は、20世紀を特徴づけ、本質的な普遍性を有する近代主義に直接的な関連性がある。インターナショナルスタイルと機能主義を含むこの思想は、20世紀の建築や都市に大きな影響を与え、その居住環境や建築・都市空間についての人々の思考様式を一変させ、今日でも全ての建築家や都市計画家が共有する文化的な土台をなしている。

国立西洋美術館本館について

1. 概要

国立西洋美術館本館は、日本に所在する唯一のル・コルビュジエ設計による建築である。実業家・松方幸次郎の美術品コレクション（絵画、彫刻等）のうち、パリに保管され、第二次世界大戦後にフランス政府に押収されたものについては、1953年、その大半が日本国政府へ返還されることとなった。返還に当たっては、西洋美術の変遷が学術的に日本人々に伝わるような新美術館の建設が条件とされ、国立西洋美術館本館は、この条件を満たすために日本国政府が上野恩賜公園内に建設したものである。

設計者にはル・コルビュジエが選ばれ、建設にあたっては、ル・コルビュジエの下で学んだ前川國男、坂倉準三、吉坂隆正が設計補助ならびに現場監理を行っている。着工は1958年3月、竣工は1959年3月である。

国立西洋美術館は、陸屋根、正方形の平面形状、らせん状の回廊、展示品の増加に伴い渦が大きくなるように増床できる平面計画等、ル・コルビュジエによる「限りなく成長する美術館（Musée à croissance illimitée）」の構想をよく現した作品として評価されている。ピロティー、屋上庭園、斜路、自然光を利用した照明計画等、ル・コルビュジエに特徴的な設計要素を随所に見せる点でも貴重であり、20世紀を代表する世界的建築家のル・コルビュジエの代表作品として、顕著な普遍的価値を持っている。

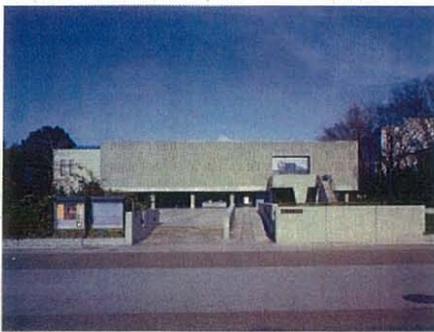
2. 遺産の種別

文化遺産のうち、記念工作物

3. 所在地

東京都台東区上野公園 7-7

(正面)



(展示室)

